

長野地域の特性・めざす姿

【計画期間：R5年度（2023年度）～R9年度（2027年度）】

特性

長野地域は、千曲川と犀川に沿って開けた善光寺平に、主要官公庁や事業所、教育文化施設などが集積する都市部と、豊かな農地や豊富な水資源・森林資源に恵まれた農山村部が調和し、**本県における政治、経済、教育、文化などの面で中心的な役割を果たしています。**県人口の約4分の1を占め、機械・電気・食品などを主力とする製造業が地域経済をけん引するほか、果樹など農業生産も盛んです。また、善光寺、戸隠神社などの貴重な歴史文化遺産、豊かな自然など魅力ある観光資源に恵まれ、新幹線や高速道路をはじめ、交通インフラの整備が進み、県内の他圏域はもとより首都圏・北陸圏との往来が容易な地域です。

長野県を100とした長野地域の指数 【将来人口推計による人口減少率】91 ※県平均より抑制 【総面積に占める地すべり防止区域の割合】306 【農家一戸当たり樹園地面積】179 【全産業の事業所数に占めるIT関連企業の割合】125

めざす姿

大規模災害や新型コロナウイルス感染症の経験を十分生かし、地域のポテンシャルを最大限発揮できるよう、**長野地域連携中枢都市圏の取組と足並みを揃えて人が集い活力あふれる「中核的都市圏・長野」を目指します。**
①令和元年東日本台風災害の経験を生かし、ハード・ソフトの両面で減災に向けた取組が進展するとともに、気候危機突破のための脱炭素社会の実現に向けた取組が進んでいます。
②新型コロナウイルス感染症の拡大による人々の価値観・行動の変化や地方回帰の流れを踏まえ、誰もが自分らしく生きることができ、移住先としても選ばれる地域となっています。また、地域の中で医療・介護を受けられる体制が維持され、日ごろからの健康づくりにより、安心して暮らせる地域が実現しています。
③少子高齢化が進み、人口が減少する中であっても、デジタル技術や地域の強みを生かし、産業の振興が一層進み、地域が更に発展しています。

長野地域の「地域重点政策」

1

大規模災害の経験を生かし「自然災害に強い持続可能な長野地域」をつくる

- 千曲川や犀川といった大河川が流れ、急峻な地形と脆弱な地質を有し、豪雪地帯を抱える長野地域において、自然災害から住民の暮らしや中核的都市機能を守るため、防災・減災対策を進めます。
- 気候変動リスクが低減された持続可能な地域を実現するため、脱炭素社会づくりを推進します。

取組内容

防災・減災による安全安心な地域づくり

- 国・県・流域市町村が連携した「信濃川水系緊急治水対策プロジェクト」の着実な推進
- 「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」などを活用した社会基盤整備の推進
- 既存ストックを有効活用した砂防・治山など老朽施設の計画的な更新、機能強化
- 河川水位やライブ映像などリアルタイム情報の提供体制の充実
- 土砂災害専門家（赤牛先生）の活用などによる防災意識の向上や地域防災リーダー育成の支援
- 若穂スマートIC（仮称）や県道三才大島島中御所線の四車線化などの生活と経済を支える道路網の整備・維持

脱炭素地域づくり

- 住宅への太陽光パネル設置の普及、農業用水や砂防堰堤を活用した小水力発電の推進、廃培地や食品廃棄物のエネルギー利活用の促進などによる再生可能エネルギーの生産量拡大
- 信州健康ゼロエネ住宅・電気自動車（EV）の普及などによる二酸化炭素排出量の削減

森林資源を生かす健全な山づくり

- 森林整備や谷止工などの整備による災害に強い森林づくりの推進と県産材の利用促進
- 森林経営管理制度の導入推進や地域住民が主体的に里山整備や利活用に取り組むための地域リーダーの育成

達成目標

千曲川沿いに整備する排水機場数（R5～R9年度累計：新設2か所、改修7か所）

住宅太陽光発電設置件数（累計）（R3年度 20,445件）⇒（R9年度 39,150件）

民有林における造林面積（R3年度 14.5ha）⇒（R9年度 36.0ha）

2

ポストコロナ時代に選ばれる「誰もが自分らしく健康に暮らせる長野地域」をつくる

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による人々の価値観の変化や地方回帰の流れを踏まえ、ポストコロナ時代に選ばれる元気で魅力的な地域づくりを進めます。
- 感染症など様々な健康リスクに対して、生涯を通じて健康で生き生きと活躍できるよう、医療提供体制の充実や健康増進などの取組を進めます。

取組内容

自分らしく活躍できる元気な地域づくり

- 地域おこし協力隊、特定地域づくり事業協同組合など地域社会の担い手確保・育成の支援
- フードバンク団体などと役割分担しながら、「長野地域こどもカフェプラットフォーム」を核にした子育て世代への支援や子どもの居場所づくりの推進
- 市町村と連携した地域公共交通の維持・存続

移住者やつながり人口を呼び込む魅力的な地域づくり

- 市町村や連携中枢都市圏が実施する首都圏での移住・就職イベントへの参画や移住者の受入支援
- 「職場いきいきアドバンスカンパニー認証制度」などにより、企業の働きやすい職場づくりの促進

身近に文化とスポーツがある豊かな地域づくり

- 長野地域における文化芸術・生涯学習活動の更なる振興や文化財の活用
- プロスポーツチームとの連携・協働による地域の活性化

健康に暮らせる地域づくり

- 長野赤十字病院や信濃町立信越病院の建て替えや新興感染症への対策などを踏まえた、地域で安心して医療・介護を受けることのできる体制の充実
- 協会けんぽや商工団体などと連携した働き盛り世代に向けた食や健康に関する取組の推進

達成目標

移住者数（R3年度 366人）⇒（R9年度 450人）

特定健診受診率（R元年度 55.5%）⇒（R7年度 60.0%）

3

人口減少下にあっても「デジタル技術や地域の強みを生かし今後も躍進する長野地域」をつくる

- 人口が減少し、担い手が限られる中でも、様々な産業分野でデジタル技術の活用を進め、地域産業の活性化を図ります。
- 個人旅行の増加など旅行動向の変化や新たな観光需要に応える地域情報の発信など魅力的な観光地域づくりを支援します。
- 長野地域の特色である果樹生産を更に拡大するため、シナノリップやナガノパープルなどの県オリジナル品種の戦略的導入や必要な施設整備などを進めます。

取組内容

デジタル技術の活用、DXの推進による産業・経済の活性化

- デジタル技術を活用した創業・新事業創出など、産業振興に向けた長野県工業技術総合センター等の産業支援機関や信州大学、長野県立大学等の高等教育機関との更なる連携の推進
- IT企業と中小企業とのマッチングによるDX推進やデジタル技術の導入促進
- 建設産業におけるICT（情報通信技術）の更なる活用やBIM/CIMの取組などによる生産性の向上

デジタル社会を支え利用する人材の育成・誘致

- 長野県産業振興機構や信州ITバレー推進協議会などとの連携によるDX推進、ITリテラシーを高めるリカレント教育やリスキリングの推進
- 信州リゾートテレワーク拠点の活用や、産業支援機関・高等教育機関との連携による多様なIT人材の育成・誘致

達成目標

IT関連支援企業数（R3年度 3社）⇒（R5～R9年度累計 50社）

観光地延利用者数（R3年 777万人）⇒（R9年 1,600万人）

果実産出額（R2年度 335億円）⇒（R9年度 354億円）

新たな需要に応える観光地域づくり

- 善光寺や戸倉上山田温泉など観光地の魅力向上に加え、農業・アウトドアなど特徴ある体験型観光コンテンツの充実及び効果的な情報発信
- インバウンドやMICEの増加に向けた観光資源の磨き上げや持続可能な観光地域づくりの推進
- 姨捨の棚田のビューポイント、小布施町中心部や戸隠神社奥社周辺における歩道など観光地の魅力につながる基盤整備

「ながの果物語り」プロジェクトによる果樹振興

- クイーンルージュ®など消費者ニーズの高い県オリジナル品種の戦略的導入の促進
- 労働力確保や地域内外での認知度向上など地域全体で振興を図るための推進体制の整備
- 高品質な果樹の栽培に不可欠な畑地かんがい施設の整備